

第4回定例会 保健福祉委員会 より

サポーターではなくパートナーとしてともに生きる 中期実施基本計画の見直しを

今議会では「葛飾区中期実施計画」素案が示され、保健福祉委員会では保健福祉分野について審議しました。計画に対し「障がいのある人、認知症の人とわけないかたちで、あたりまえに共に地域で暮らしていけること」を求め、支援を必要としている人と支援者という関係ではなく、共に生きるパートナーであるという考えを基本において、計画をすすめていくことを要望しました。

計画には「互いに支え合いながら」「共に働き」「共に生活」などの表現があります。しかし実際の事業は認知症サポーター養成講座、障がい者スポーツの推進、障がい者表彰など、認知症や障がいのあるなしをわけているものが目につきます。

一昨年、特別支援学校の生徒さんが「地元のマラソン大会に参加でき、地域に受け入れられていると感じられた」と大変嬉しそうに話された、とうかがったとき、無意識にわけていること、共に過ごす機会の少なさを実感しました。障がいのある人が障がい者のスポーツ大会に参加するだけではなく、日々の生活の中で地域の行事、区のイベントなどにも参加しやすくすることが必要です。

葛飾区の認知症サポーター養成講座では、認知症の基礎知識、接し方、サポーターの役割を学びます。これに加えて世田谷区のように、認知症の人を共に生きるパートナーとして位置づけるなど、内容のリニューアルを求めます。

2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
将来像や理念、基本的な方向性を示す 基本構想 (葛飾区では10年ごとに策定)									
基本構想を実現するための基礎となる 基本計画									
前期実施計画									
		中期実施計画の策定	中期実施計画						
			中期実施計画の策定	後期実施計画					

基本構想に
掲げられた
理念

- ◆人権・平和・多様性の尊重
- ◆持続的な発展
- ◆協働によるまちづくり

実施計画や分野別事業計画の指針
20の政策・64の施策を分野ごとに記載

基本計画で定めた計画事業についての
4年間の年次計画

「中期実施計画」は、葛飾区が基本構想の実現に向けて取り組む基本計画(2021～2030年度)を進めるため、2024～2027年度の具体的な事業内容を年次計画としてまとめたものです。区の各事業展開の元になる大切な計画です。

第4回定例会を終えて **これでは大変。議会や区民の声を反映させる工夫を**

今議会には中期実施計画素案だけでなく、分野ごと(健康・福祉・子育て・教育・街づくり・環境・産業など)の計画の見直しの時期にもかさなっており、保健福祉委員会だけでも8件の計画素案が報告され、審議しました。

審議時間に制限はないものの、内容は膨大で、1つ1つ丁寧に審議するには時間が短く感じました。また、各委員会での報告を経て全部で、14件のパブリックコメントが実施されましたが、意見募集の期間はすべて同じ12月11日から1月9日でした。

区が議会や区民に意見を求め、計画に生かすためには同時期にならないように日程を調整するなど、工夫する必要があります。

《同期間に14件ものパブリックコメントを実施》
 中期実施計画 / 区民サービス向上改革プログラム / 総合戦略 / 「かつしかDX」の戦略的取組 / 再生可能エネルギー導入戦略 / 第9期高齢者保健福祉計画 / 介護保険事業計画 / 第2期地域福祉計画 / 第6期高齢者虐待防止・養護者支援計画 / 障害者施策推進計画 / 第7期障害福祉計画 / 第3期障害児福祉計画 / 第4期特定健康診査等実施計画 / 第2期保健事業実施計画 / 子ども・若者基本構想 / 耐震改修促進計画 / 学校教育情報化推進計画 / 感染症予防計画 (〔葛飾区〕及び(素案)を省略しています)

インクルーシブな社会はインクルーシブな公園から 計画段階から当事者の声を取り入れて

2026年に開設が予定されている「子ども未来プラザ白鳥」についての報告の中で、施設と一体で整備される白鳥北公園に、インクルーシブ遊具(障がいのあるなしに関わらず遊べる遊具)の設置が検討されていることが明らかになりました。

インクルーシブ遊具の選定は、子どもや保護者、子ども発達センターの関係者の意見を聞いて行うとのことですが、それだけでは不十分です。

インクルーシブ遊具を取り入れれば、誰もが集い遊べる公園になるのではなく、障がいの理解が広がることや、物理的・心理的・社会的なバリアが取り払われる環境が整うことが必要です。

今後の公園整備においては、障がいの有無や言語の違い、年齢などに関わらず共に遊び過ごせる公園になるよう、計画の初めの段階から当事者が参加するワークショップを実施し、すすめていくことを求めています。

「子ども未来プラザ」とは、2013年7月策定の「子育て支援施設の整備方針」に基づき、妊娠期から子どもの成人までの一貫した切れ目のない支援を実現する地域の拠点施設として順次建設が進められている、保健センター、児童館、保育園、区民センターなどの機能(建設地域により内容は異なる)を統合した施設です。区内7か所の建設が予定されており、2024年1月現在、鎌倉、西新小岩、東四つ木の3か所が開設しています。



生活の中で感じる疑問・困難、こんなまちにしたいというご提案などご自由にお書きください。

WEBフォームからも回答いただけます

だれもが住みなれた地域で安心して暮らせる葛飾に
あなたのひとことをお寄せください

お手数ですが63円切手を貼付のうえ投函ください

125-0054

夫と息子の3人家族 沼田 たか子のプロフィール
葛飾区新宿在住

1976年 新潟県吉田町(現:燕市)生まれ。新潟大学医療技術短期大学部看護学科卒業。日本医科大学付属病院、新潟大学附属病院に勤務。結婚後、訪問看護師として働く。2011年 聖徳大学人文学部心理学科卒業。生活クラブ生協加入。2013年 葛飾区新宿に転居。子育てをしながら、生活クラブ生協まちかつしかの運営委員として活動。2017年より区内の訪問看護ステーションに勤務。2021年 葛飾区議会議員選挙初当選(文教委員会、区民サービス向上対策特別委員会に所属)2023年10月より保健福祉委員会、危機管理対策特別委員会に所属

- 資格：看護師、介護支援専門員、心理相談員
- 趣味：庭いじり、ヨガ

東京都葛飾区高砂8-21-1
沼田 たか子 行

よろしければご記入ください

お名前： _____

ご住所： _____

電話番号： _____

メールアドレス： _____